

全体を通して多かった質問（及びその回答）

Q. 新中学校（再編後の中学校）を、いつから、どの場所に開校するのか。

A. 現段階では決まっています。平成26年10月に設置した「田川市新中学校のあり方に関する審議会」（住民代表等12名で組織。以下「審議会」という。）で、これから審議します。審議会は、取りまとめた意見を教育委員会に提言します。その提言を受けてから、教育委員会が再編計画を策定し、いつから、どこに開校するかを決定します。

Q. 新中学校（再編後の中学校）は、新たな場所に建設するのか、既存の学校を使うのか

A. 現段階では決まっています。これから議論していきます。

Q. 中学校給食は、どうなるのか（早く実施してほしい）。

A. これまで教育委員会は、中学校給食と再編を併せて実施する方向で議論してきました。しかし、本年4月の改選で新市長となり、市長から再編を待たずに実施することを検討してほしいと投げかけられています。今後は早期に実施できるよう検討していきます。

Q. 平成26年4月に小中一貫校として開校した猪位金学園は、再編の対象となるのか。

A. 今回の再編は、猪位金学園を除く7中学校が対象です。猪位金校区に関しては、有識者などで組織した「田川市立学校適正規模審議会」から、小中一貫校の設立を検討するよう平成18年に提言（審議会答申）を受けました。猪位金学園は、その提言に基づいて開校した経緯があります。しかし、猪位金学園は、小規模校のままであり、小中一貫校では解消することができない課題が残ったままです。従って、猪位金学園は、当面現状のままですが、将来的には再編の対象とならないわけではありません。

Q. 中学校は再編せずに、猪位金学園のような小中一貫校にすればよいのではないか。

A. 小中一貫校は、主に中一ギャップの解消が目的です。小中一貫校の設置では、小規模校が抱える教育環境の課題（クラス替えができない、適度な競争がある教育活動ができない、習熟度別指導などの多様な指導形態がとりにくい、部活動が限定される等）を解消することができません。今回の再編は、小中一貫校の設置では解消できない課題を克服することが目的です。

※中一ギャップ … 小学校から中学校へ進学した際に、新しい環境での学習や生活にうまく適応できず、不登校等の問題行動につながっていくこと

Q. 今後、国は小中一貫校を推進していくのではないのか。

A. 先般、国は自治体が小中一貫教育を導入しやすいよう制度改正を行いました。この改正により、平成28年4月から、9年間を共通したカリキュラムで学ぶ小中一貫校を、新たな学校の種類として「義務教育学校」と名付け、現行の小中学校に加え、新たな学校に位置づけました。この義務教育学校（小中一貫校）は、同じ敷地内に学校を設置する「施設一体型」だけを想定しているわけではありません。学校が離れていても義務教育学校（小中一貫校）は設置できます。施設分離型の義務教育学校（小中一貫校）でも、中一ギャップを解消するための弾力的カリキュラムを組むことは可能です。再編したからといって、小中一貫校が実現できなくなるわけではありません。

Q. 学校自由選択制を導入するのか

A. 現段階では決まっていません。今後審議会でも議論してもらいます。

Q. 小学校も再編するのか。

A. 今回の再編では小学校は扱いません。審議会でも議論はしていません。

Q. 再編することで学力は上がるのか。

A. 再編の効果のひとつに、同一教科に配置される教員数が増えることが挙げられます（例えば社会科の先生が学校内に1人だったのが3人になる等）。学内に同一教科の教員が増えることで、学内での研修機会が増え、指導方法の工夫改善やノウハウの共有化などが期待できます。また、習熟度別指導（生徒の習熟度に応じて授業のときだけ学級を再編成して行う指導）が行いやすくなります。再編により指導体制の充実を図り、全体のレベルアップを目指していきます。

Q. 小規模校のほうが、生徒に目が行き届くのではないか。

A. 生徒の数が少なければ、教員が全生徒の顔と名前を覚えることができたり、先生と生徒の関係がより密接になったりするメリットがあります。この側面から見れば、小規模校のほうが生徒に目が行き届きやすいと言えます。しかし、小規模校は学級数が少ないため、教員の定数配置が少なくなります。そのため、習熟度別指導などの多様な指導形態がとれず、学力に応じたきめ細かな指導が行いにくくなります。また、教職員が問題行動を繰り返す生徒の対応に追われたり、病欠となったりすれば、指導が行き届かなくなる側面があります。

Q. 一部の地域で小学校区と中学校区の線引きがズレているが、再編で解消されるのか

A. 校区の線引きのズレによって、一つの小学校から別々の中学校に進学する状態が生じています。今回の再編でその解消が図れるように検討していきます。

Q. 中学校がなくなると、地域コミュニティの崩壊につながるのではないか。

A. 市民の生涯学習を推進し、地域の活動の中心的な役割を担っている校区活性化協議会は、中学校区を枠組みにして組織されています。中学校を再編すると、中学校区の線引きがなくなるため、地域コミュニティの崩壊につながるご心配の声があります。このことを踏まえて、今回の再編では小学校を対象としていません。これまでの中学校区単位での地域の取り組みを、小学校を核にして引き継いでいただきたいと考えています。地域コミュニティやその取り組みを守りながら、学校教育を充実させる再編を考えていきます。

全体を通して多かった意見(来場者アンケートの自由記述を含む)

※上記Q & Aと内容が重複するものは除く

- ・猪位金小中一貫校の成果を知りたい
- ・再編の行程表がないと議論ができない
- ・今後も説明会を開催してほしい
- ・未就学児・小学生の保護者に説明会参加の呼びかけが足りない
- ・開校までに十分な準備期間をとってほしい
- ・説明会での意見をホームページ等で公表してほしい
- ・他自治体の再編の事例を知りたい
- ・組合立中学校設立は再編にどう関係するのか
- ・再編より子育て支援策などで人口増を図るべきだ
- ・再編のデメリットを説明してほしい

- ・学校が遠くなると安全面で心配
- ・しっかりした安全対策をとってほしい
- ・スクールバスを導入してほしい
- ・廃校となった校舎はどう活用されるのか
- ・段階的に再編してほしい
- ・今着ている制服はどうなるのか
- ・学校が遠くなると、地域の目が子どもたちに届かなくなる
- ・子どもたちに対する地域の取り組みが減る
- ・再編すると生徒流出が進む
- ・少人数学級をさらに進めてほしい
- ・2校再編は極端すぎる（1学年180人は多すぎる）
- ・3校以上の再編も検討してほしい
- ・再編をもっと急ぐべきだ
- ・再編校は同じ（学習指導、部活等）内容の学校にしてほしい
- ・再編すると部活動が活発になってよい
- ・再編したら学校が荒れる
- ・いじめやストレスが心配だ
- ・（スライドの説明にあった）大学入試制度やアクティブラーニングは再編とは関係ない
- ・学校数は現状のままで教員を増やせばよい
- ・国や県に教員配置増の働きかけを強くすべきだ

各会場での意見・要望

※再編問題と直接関係のない意見・要望は割愛しています。

《鎮西校区会場》

- ・中学校再編と併せて小中一貫校設置を考えてほしい
- ・少子化を見据えて1中学校にすべきだ
- ・個性や学力が伸ばせる多様な教育環境の実現のためには再編は必要だ
- ・他市町村の事例を参考に進めているのか

- ・市教育委員会が教職員をどれだけバックアップできるかが課題だ
- ・弁当では栄養が偏りがちで不安があるので、給食を導入してほしい
- ・再編すると中一ギャップの不安が増す
- ・次回以降の説明会では、具体案を示してほしい

《中央校区会場》

- ・船尾小・弓削田小の校統合による検証を活かしてほしい
- ・子どもを生みやすいまちづくりを考えてほしい
- ・子どもたちと向き合う教育が大切なので、そのことを考えて審議してほしい
- ・再編後の学校跡地はどうなるのか
- ・廃校になった船尾小学校の取り扱いはどうなっているのか
- ・猪位金学園は今回の再編の流れのなかでどうなっていくのか
- ・今後給食を実施する場合、経済格差が教育格差につながらないような負担の仕組みづくりを審議してほしい
- ・今着ている制服は、再編後の学校では使えなくなるのか
- ・猪位金は再編対象に含めるのか
- ・猪位金中学校を再編に含めるなら、小学校を切り離して残すのか
- ・学校区割のことがあるので、小中一貫校を考えてほしい
- ・市教委の議論は、学校教育の視点ばかりで、地域づくりや生涯学習の視点が欠けている
- ・再編時期の目処が立てば早めに説明してほしい
- ・学校統廃合だけでなく地域の課題や田川市全体の問題として議論を広げてほしい

《伊田校区会場》

- ・学級規模は、1学級20人ぐらいが望ましい
- ・教員を増やしてほしい
- ・再編は経費節減のためではないのか
- ・2校にした理由は何か
- ・クラス替えでいじめがなくなるのか
- ・アクティブラーニングを説明に入れたのにはどういう意図があるのか
- ・現状の学校での教員と生徒の対人比と2校にした場合の対人比はどう変わるのか

- ・現状でも教科に複数教員がいるが、スライドの説明では教員がいないような誤解を招く
- ・現場教員のどんな意見を持っているのか
- ・再編時期を示して準備期間を設けなければ、急な対応はできない
- ・再編後の区域外申請の取り扱いはどうなるのか
- ・クラス替えでいじめから逃れた経験があるので、クラス替えができる環境はあるべき
- ・クラス替えをする際には、子どもの人間関係を考慮してほしい
- ・再編校は同じ（学習指導、部活等）内容の学校にしてほしい
- ・今後も説明会を開催するのか
- ・組合立の中高一貫についてどのように議論されているのか
- ・審議会でも再編に反対の立場の委員はいないのか
- ・再編をしないという選択肢はあるのか
- ・再編することで教科に複数担任を置いてほしい
- ・スライドには課題の説明がない
- ・スクールバスは6kmを超えないと出ないのか
- ・具体的に地図で6kmの範囲を示してほしい
- ・スライドの説明には偏りがある
- ・アンケート結果の詳細を示してほしい
- ・市は教育にもっとお金をかけて、教員数を増やしてほしい
- ・現在の各中学校の人数を示してほしい
- ・再編は必要だが2校は極端すぎる
- ・他校区の説明会で出た意見等を公表してほしい
- ・猪位金学園も1学年3学級が必要と考えているのか
- ・猪位金学園の通学区域を拡大するのか
- ・学校自由選択制を導入するのか
- ・開校から1年経った猪位金小中一貫校の成果を知りたい

《田川校区会場》

- ・大藪小学校には、特例区制度（一部地域に申出があれば区域外就学を認めている制度）で西区（後藤寺、弓削田方面）から通ってくる子どもがいるが、再編後の中学校の場所によっては、別々の中学校に通うことになるのか

- ・再編後の学校がいつどこに設置されるかわからないので意見が出せない
- ・説明会を開催するタイミングがおかしい
- ・アンケートは具体的な内容を示してから実施すべきではなかったか
- ・再編に取り組む本気度が感じられない
- ・中学校給食は実施されるのか
- ・再編後の校舎は新築してほしい
- ・何年後に開校するかが重要であり、子どもが対象となるか否かで保護者は関心が変わる
- ・再編のロードマップを示してほしい
- ・参加者が少ないので周知方法を検討してほしい
- ・再編で2校または3校になれば、子どもたちが自立、自活するために良い教育ができる
- ・再編は、2～3年後の早い時期に実施してほしい
- ・審議会の情報を早く提供してほしい
- ・小規模校のほうが、少人数で丁寧な指導ができる
- ・説明会の回数を増やしてほしい。
- ・6 km以内は適正な通学距離との説明だったが、自転車通学でも6 kmはかなり遠い
- ・スクールバスの場合は補助金はあるのか
- ・今使っている制服はどうなるのか
- ・いつごろまでに具体的な再編時期を説明できるのか
- ・再編の取り組み方が遅い
- ・説明会で出た様々な意見を基に慎重に審議してほしい
- ・20年後の生徒数まで想定しているが、最初から2校再編とするのか、段階的に2校にしていくのか
- ・次の説明会では具体的な内容を用意してほしい
- ・新たな場所に給食施設を備えた学校が新築されるのか
- ・他の校区の参加人数や議論の内容を知りたい

《猪位金校区会場》

- ・学級数が少ないほうが生徒のことをよく把握できる
- ・生徒が多くなると目が行き届かなくなる
- ・一定数の生徒がいなければ、できない教育活動が生じてくることは理解できる

- ・田川市内で荒れている学校はあるのか
- ・市外中学校に進学する子どもが多い具体的な理由は何か
- ・市立小学校では、習得すべき学力をしっかりと習得できているのか
- ・市内の中学校を2校にするということだが、猪位金学園はどうなるのか
- ・猪位金学園は小規模校で教員の配置が少ないなので、教員を増やす手立てをしてほしい
- ・再編した場合、今の通学校区制はどうなるのか
- ・組合立の中高一貫校について市教委はどう考えているのか
- ・組合立中高一貫校についても市民の意見を聞いてほしい
- ・猪位金学園は良い環境が整っているので、存続発展させる方向で考えてほしい
- ・再編しても学力が上がらなければ意味がない
- ・子どもたちの学力が上がり、市内の学校を自由に選べる環境が整うのが理想である
- ・小学校の再編はどうなるのか
- ・今後小中一貫校は他校区でもできるのか

《後藤寺校区会場》

- ・1学級の最少人数は何人か
- ・生徒が少ない方が、目が行き届いてよい
- ・再編時期の目標はいつか
- ・再編後の中学校は、新たな場所に建設するのか、既存の学校を使うのか
- ・アクティブラーニングと再編はどんな関係があるのか
- ・再編後の中学校は、生徒の安全等を考慮して新たな場所に建ててほしい
- ・各学校に特色を持たせるのであれば、学校を選べるようになるのか
- ・アンケートの回収率が低いですが、もっと上げる手立てが必要だったのではないか
- ・説明の内容が中途半端だ
- ・説明会は何回くらい開催するのか
- ・新たな場所に校舎をつくった場合、現在の校舎はどうなるか
- ・廃校になった校舎が、悪い子のたまり場になるのが心配だ
- ・生徒指導に専任の教員を配置してほしい
- ・全国平均より学力が低いのは、クラスの数が少ないからなのか

《金川校区会場》

- ・金川は猪位金と同じような地域性や地域力があるので小中一貫校をつくってほしい
- ・猪位金は子どもが少ないのに再編から除かれ、小中一貫校でよいとしている理由がわからない
- ・審議会のメンバーを教えてください
- ・学校が遠距離になれば、子どもが地域の目の届かないところに行ってしまう
- ・学校が地域からなくなると、地域の持つ力を教育に還元できない
- ・学校が地域からなくなると、地域の良い慣習を子どもたちに伝えられない
- ・学校が地域からなくなると、地域崩壊につながってしまう
- ・地域で子どもの育ちを見守りたいので、地域から学校をなくさないほしい
- ・学力向上だけの問題ではなく、子ども子育てなどの施策から検討してほしい
- ・再編問題は子どもだけの問題ではなく、地域力の観点からも考えてほしい
- ・説明はいいことばかり言っているような気がする
- ・習熟度別に分けて指導すれば、いじめの対象になることも考えられる
- ・再編のデメリットを説明してほしい
- ・教員が病欠の場合、現状はどのように対応しているか
- ・再編しても私立や県立に生徒が流出する状況は変わらないのではないか
- ・再編すると施設建設や通学等への対応で経費が掛かるが、市民の負担は増えないのか
- ・学校が遠くなると通学距離の負担もあるが、弁当を作る時間も早まるので負担が増える
- ・基礎学力の向上を目指していると思うが、数値目標等はあるのか
- ・習熟度別指導では上位の学力は上がるが、下位は下がり、全体的に下がるのではないか
- ・各学校に特色を持たせるとなれば、学校選択制を導入するのか
- ・統廃合を行った学校は、実施してみると案外よかったと聞いたが、統廃合をした他市町村の学校を見てどうだったか
- ・再編に当たって、教員がハードな業務にならないよう考えてほしい
- ・校区活性化協議会の特色ある取り組みは、学校を核とした地域コミュニティを支えているので守ってほしい
- ・子どもが増える施策や教育予算の充実を図ってほしい
- ・特例区制度（一部地域に申出があれば区域外就学を認めている制度）は支障をきたして

いるので、再編する際に同じことを繰り返さないでしてほしい

《弓削田校区会場》

- ・再編後の2校はどの場所に設置しようと考えているのか
- ・2校に再編することで何か悪い影響はないのか
- ・地元で中学校がなくなったら、県立や私立に通わせる人が増える
- ・弓削田小と船尾小の統合は、始めから結論が決まっていたため反発があったが、実際統合してみたら、子どもたちの人間関係が広がり良い結果となった
- ・教育委員会は、再編の内容をきちんと住民に伝えながら進めてほしい
- ・バス通学を採用した場合、乗り遅れると親が送り迎えすることになり負担が増える
- ・中学校を2校にしてそれぞれに特色を持たせた場合、学校を選ぶことはできるのか
- ・小規模校の猪位金学園を再編から除くのは、他の学校を再編する理由と矛盾する
- ・再編後の中学校は、新たな場所に建設するのか、既存の学校を使うのか
- ・再編は何年後を予定しているのか
- ・再編は学力アップに繋がるのか
- ・他の自治体の先進事例を知りたい
- ・想定以上に児童数が減ってきた場合、前倒して再編することはあるのか
- ・どれだけ反対があっても再編を進めていくのか
- ・アクティブラーニングは現中学校でも対応できるのか
- ・廃校となった学校跡地はどう使用されるのか
- ・学校がなくなると、校区の行事が出来なくなって困る
- ・特色ある学校づくりや21世紀型学習の対応に準備はできているのか
- ・学校給食は何十年も実現しなかったのに、学校再編は実現できるのか
- ・再編までに時間がかかると思う
- ・子どもたちが学力が伸びずに苦しんでいるなら、子どもたちのために努力してほしい